

みずほマーケット・トピック(2025年1月10日)

内容 1. 為替相場の動向

2. 来週の注目材料

※誠に恐れ入りますが、「3. 本日のトピック」はお休みさせていただきます。

1. 為替相場の動向(関連レポート:「みずほ Customer Desk Report」、「今週の為替相場見通し」)

- 今週のドル/円はじり高となり、158円に乗せる展開になった。週初6日、157.54円でオープンしたドル/円は特段材料がない中でじり高。海外時間は、トランプ次期米大統領の関税政策を巡る観測報道を受け、米金利低下と共に一時週安値となる156.25円まで急落。もっとも、トランプ氏による同報道否定により、157円台半ばへ値を戻した。7日、ドル/円はドル買い相場の中で158円台半ばに上昇も、本邦政府高官による円安けん制発言を受け反落し、上に往って来い。海外時間は、米経済指標の堅調な結果を受けじり高も、介入警戒感もくすぶるなかで、上値は限定的となった。8日、ドル/円は158円台前半を中心にレンジ推移。海外時間は、米金利上昇を背景に一時週高値となる158.55円を付けたものの、ウォーラーFRB理事のハト派発言や米雇用関連指標の冴えない結果が重しになり、その後は上値重く推移した。9日、ドル/円は日銀利上げ期待の高まりから軟化し、158円を割り込む展開。海外時間は、米金利の動向に振らされながら上下し、158円を挟んだみ合い推移に終始した。本日のドル/円は、引き続き158円台前半で取引されている。
- 今週のユーロ/ドルは上に往って来い。週初6日、1.0303でオープンしたユーロ/ドルは独12月消費者物価指数(CPI、速報)の強い結果や米関税関連報道を受け買われ、一時週高値となる1.0437へ急伸。もっとも、同報道をトランプ氏が否定したことで1.04を割り込んで引けた。7日、ユーロ/ドルは前日の高値圏まで上伸後、複数の米経済指標の良好な結果を受けた米金利上昇を嫌気し、1.03台前半へ反落した。8日、ユーロ/ドルは独11月小売売上高や独11月製造業受注の冴えない結果や米金利上昇を嫌気し、一時週安値となる1.0274まで軟化。その後は米経済指標の弱い結果が下支えとなり、1.03台を回復した。9日、ユーロ/ドルは特段の材料のない中で、1.03を中心とした狭いレンジでのみ合い推移となった。本日のユーロ/ドルは、引き続き1.03付近で取引されている。

		前週末	今 週			
		1/3(Fri)	1/6(Mon)	1/7(Tue)	1/8(Wed)	1/9(Thu)
ドル/円	東京9:00	157.37	157.54	157.83	158.21	158.17
	High	157.50	157.95	158.42	158.55	158.38
	Low	156.89	156.25	157.35	157.90	157.59
	NY 17:00	157.30	157.63	158.08	158.35	158.08
ユーロ/ドル	東京9:00	1.0268	1.0303	1.0384	1.0344	1.0314
	High	1.0310	1.0437	1.0434	1.0357	1.0320
	Low	1.0265	1.0296	1.0340	1.0274	1.0284
	NY 17:00	1.0309	1.0391	1.0340	1.0320	1.0299
ユーロ/円	東京9:00	161.59	162.34	163.83	163.64	163.09
	High	162.20	164.00	164.52	163.78	163.22
	Low	161.45	162.20	163.23	162.87	162.40
	NY 17:00	162.20	163.78	163.36	163.43	162.89
日経平均株価	-	39,307.05	40,083.30	39,981.06	39,605.09	
TOPIX	-	2,756.38	2,786.57	2,770.00	2,735.92	
NYダウ工業株30種平均	42,732.13	42,706.56	42,528.36	42,635.20	-	
NASDAQ	19,621.68	19,864.98	19,489.68	19,478.88	-	
日本10年債	-	1.12%	1.13%	1.17%	1.17%	
米国10年債	4.60%	4.62%	4.68%	4.69%	4.69%	
原油価格(WTI)	73.96	73.56	74.25	73.32	73.92	
金(NY)	2,654.70	2,647.40	2,665.40	2,672.40	2,690.80	

ドル/円相場の動向



ユーロ/ドル相場の動向



2. 来週の注目材料

- 米国では、15日(水)に12月消費者物価指数(CPI)が公表予定となっている。前回11月の結果は+2.7%(前年比、以下同様)と市場予想と一致したが、10月の+2.6%から伸びが加速した。また、食料品とエネルギー価格を除いたコアベースでは、+3.3%と市場予想および10月分と一致。非コア項目では、食料品とエネルギーの双方がヘッドライン加速に寄与した。コア項目では、コア財の下落幅縮小とコアサービスの伸び鈍化が概ね相殺しあう恰好。FRBが重視する居住費除くコアサービス価格を確認しても、ブルームバーグの試算によれば+4.25%と10月の+4.38%から鈍化。もっとも、ここ数か月は総合・コアベースいずれも伸び率はレンジ圏で推移しており、ディスインフレの停滞は明白である。なお、12月の結果に関しブルームバーグの事前予想では、総合ベースで+2.9%、コアベースで+3.3%と見込んでいる。
- 欧州では、16日(木)にECB政策理事会議事要旨(12月会合分)が公表予定だ。12月会合では、▲25bpの利下げを決定。預金ファシリティ金利は、3.25%から3.00%に引き下げられた。利下げは3会合連続。声明文においては、「政策金利を十分に引き締めた水準に維持する」とする文言が削除されたことが話題を集めた。現行の政策金利水準が実体経済に対して引き締めのとは言えない水準に到達しており、今後は2%未満へのアンダーシュートも視野に入れる必要性が示唆されたと解釈できよう。ラガルドECB総裁会見においては、実体経済の弱さ、およびダウンサイドリスクの大きさを強調したことが目立った。スタッフ経済見通しも全体的により弱気に更新されており、連続利下げは支持される決定だろう。以降、ECB高官からも利下げ路線を主張する情報発信が相次いでおり、実際に市場でも今後数会合にかけて毎会合の利下げ実施が織り込まれている。

	本 邦	海 外
1月10日(金)	<ul style="list-style-type: none"> 11月家計支出 11月景気動向指数(速報) 	<ul style="list-style-type: none"> 独11月経常収支 米12月雇用統計 米1月ミシガン大学消費者マインド(速報)
13日(月)	—————	—————
14日(火)	<ul style="list-style-type: none"> 11月国際収支 12月景気ウォッチャー調査 	<ul style="list-style-type: none"> 米12月NFIB中小企業楽観指数 米12月生産者物価指数
15日(水)	<ul style="list-style-type: none"> 12月工作機械受注(速報) 	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏11月鉱工業生産 米12月消費者物価指数 米ページブック公表
16日(木)	<ul style="list-style-type: none"> 12月国内企業物価指数 	<ul style="list-style-type: none"> 独12月消費者物価指数(確報) ユーロ圏11月貿易収支 ユーロ圏ECB政策理事会議事要旨(12月会合分) 米12月小売売上高
17日(金)	—————	<ul style="list-style-type: none"> ユーロ圏11月ECB経常収支 ユーロ圏12月消費者物価指数(確報) 米12月鉱工業生産

【当面の主要行事日程(2025年1月～)】

日銀金融政策決定会合(1月23～24日、3月18～19日、4月30日～5月1日)

FOMC(1月28～29日、3月18～19日、5月6～7日)

ECB政策理事会(1月30日、3月6日、4月17日)

金融市場部
チーフマーケット・エコノミスト
唐鎌大輔(TEL:03-3242-7065)
daisuke.karakama@mizuho-bk.co.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。

バックナンバーをご希望の方は以下のサイトからお取り頂くことも可能です

<http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ.html> (Archives) http://www.mizuuhobank.co.jp/forex/econ_backnumber.html

発行年月日	過去6か月のタイトル
2025年1月9日	円金利上昇でも円安～恐れていた事態～
2025年1月8日	早速、パリティ割れを視野に捉えるユーロ/ドル相場
2025年1月7日	ブラックスワンとしての「フラガ合意2.0」を考える
2025年1月6日	25年、円相場見直しポイント整理
2024年12月24日	家計金融資産の現在地～進んだ「貯蓄から投資」～
2024年12月20日	週末版(日銀金融政策決定会合を終えて～円相場は1月まで持つのか～)
2024年12月19日	FOMCを終えて～やはり高そうな中立金利～
2024年12月18日	ドル覇権への挑戦と第二次トランプ政権
2024年12月16日	スイスフランと円の差を考える～貿易収支の大きな違い～
2024年12月13日	週末版(ECB政策理事会を終えて～目指すは中立金利以下か?～)
2024年12月11日	本邦大手保険会社の海外企業買収報道を受けて
2024年12月10日	続・円相場の需給環境について～25年ポイント補足～
2024年12月9日	2025年見通しのポイント～金利編その②～
2024年12月6日	週末版(流動化する欧州政治とユーロ相場～内憂外患そのもの～)
2024年12月5日	2025年見通しのポイント～金利編その①～
2024年12月3日	2025年見通しのポイント～需給編その②～
2024年12月2日	2025年見通しのポイント～需給編その①～
2024年11月29日	週末版
2024年11月28日	英国ISAと新NISA、資本逃避を巡る似て非なる悩み
2024年11月27日	目標にすべきではない「実質賃金の上昇」
2024年11月25日	2年ぶりに注目されるユーロ/ドルのパリティ割れ
2024年11月22日	週末版(史上最大の妥結資金も利下げ路線に影響なし～ユーロ圏7-9月期妥結資金を受けて～)
2024年11月21日	混迷が極まるドイツの政治・経済情勢
2024年11月19日	ECB政策理事会議事要旨を受けて～12月利下げの読み筋～
2024年11月18日	日銀にとって「渡りに船」となる好調な個人消費
2024年11月15日	週末版
2024年11月14日	「家計の円売り」は腰折れたのか?
2024年11月13日	内外物価格差で感じること～欧州を訪れて～
2024年11月12日	トランプ2.0で「仮面の黒字国」が主張すべきこと
2024年11月11日	弱まる「実需の円売り」vs. 強まる「投機の円売り」
2024年11月8日	週末版(ナローパスに嵌まるFRB～「トランプ2.0はインフレ2.0」～)
2024年11月1日	週末版
2024年10月28日	総選挙を終えて～「デフレ脱却」はもう刺さらず～
2024年10月25日	週末版(政治不安とトリプル安～政局不安で「日本売り」なのか?～)
2024年10月23日	アコード修正という物価高対策～最もイージーな一手～
2024年10月22日	投機の円ロングはあと半分～問題はその後～
2024年10月21日	衆院選を受けた金融市場の想定～メインとリスク～
2024年10月18日	週末版(ECB政策理事会を終えて～対照性強まるユーロとドル～)
2024年10月17日	インフレ率「0%超」目標をどう受け止めるか?
2024年10月16日	スルーされた台湾有事～やはりなかった「リスクオフの円買い」～
2024年10月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年9月分)
	不透明過ぎる11月FOMC～1年後が気がかり～
2024年10月11日	週末版
2024年10月10日	世論が望むのは「デフレ脱却」ではなく「インフレ脱却」
2024年10月9日	失速が目立ってきたユーロ圏の経済・金融情勢
2024年10月8日	円相場の基礎的需給環境の現状と展望
2024年10月7日	円の基本シナリオに変更の必要は?～雇用統計を受けて～
2024年10月4日	週末版
2024年10月3日	日銀短観(9月調査)と日銀の「次の一手」
2024年10月2日	外貨準備構成通貨の近況について(2024年6月末時点)
2024年10月1日	「石破カラー」は当面お預け～「3年でデフレ脱却」の不安～
2024年9月30日	石破政権が市場にもたらすのは希望か、失望か
2024年9月27日	週末版(145円到達と日銀の「次の一手」～それでも「時間的な余裕はある」～)
2024年9月25日	家計資産の外貨比率は過去最高～避けたい日本版トラスショック～
2024年9月24日	改めて考える日銀10月利上げの難易度
2024年9月20日	週末版
2024年9月19日	FOMCを終えて～思い出される糊代論と今後～
2024年9月18日	自民党総裁選～各候補の立ち位置と変わらぬ前提～
2024年9月17日	円高の背景にある需給改善～金利差に限らず～
2024年9月13日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年8月分)
	週末版(ECB政策理事会を終えて～予定通りも25年以降の不透明感強く～)
2024年9月11日	ECB政策理事会プレビュー～問題は2025年以降～
2024年9月10日	衰えなかった家計部門の投資意欲～資産選別の兆候も～
2024年9月9日	デジタル赤字にまつわる誤解～米国独り勝ちというバイアス～
2024年9月6日	週末版
2024年9月5日	ドイツ産業空洞化とユーロ相場について
2024年9月4日	いよいよ注目され始めたドイツの産業空洞化
2024年9月3日	大混乱から1か月～市場は安定を取り戻したか?～
2024年8月30日	週末版
2024年8月29日	日銀の自然利率推計について～「中立金利1%」説～
2024年8月27日	ドル売りの持続性は?～買われるユーロ、英ポンド、円～
2024年8月26日	パウエル講演を受けて～気になる労働市場への評価～
2024年8月23日	週末版(ECB政策理事会議事要旨を受けて～ユーロ相場の先行きについて～)
2024年8月21日	円ロングの積み上げが続くリスクはあるのか
2024年8月20日	企業買収を通じた対内直接投資の現状について
2024年8月19日	財PPP vs. サービスPPP～正しいのは円安か、円高か～
2024年8月16日	週末版(欧州経済の現状について～人手不足から需要不足へ～)
2024年8月15日	本邦個人投資家の対外資金フロー動向(2024年7月分)
	ポスト岸田の考え方～金融政策の大勢に影響なし～
2024年8月14日	24年上半期の需給環境について～ほぼ均衡～
2024年8月13日	投機が去った円相場～注目は「家計の円売り」へ～
2024年8月9日	週末版(「円安パブル」報道について②～2005-07年との比較分析～)
2024年8月8日	「円安パブル」報道について①～05-07年との比較分析～
2024年8月2日	週末版(「日銀は変わった」はいつまで続くか～「やっぱり変わっていなかった」の怖さ～)
2024年8月1日	日銀会合を受けて～ドル/円相場の考え方～
2024年7月25日	週末版
2024年7月24日	インバウンド、「量」から「質」の意味するもの
2024年7月23日	バイデン撤退も市場動かさず～円ショートは依然膨大～
2024年7月19日	週末版(ECB政策理事会を終えて～「資金は必ず下がる」という自信～)
2024年7月18日	日銀会合プレビュー～円高だからこそ利上げ～
2024年7月17日	進むインフレ税による財政再建～資金循環統計～
2024年7月16日	復活しつつある「インフレの輸入」～利上げへの追い風～